

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

## 事務局便り

No. 25

2010年4月1日

会長 安井 泉 事務局 〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部英文学科  
吉良文孝研究室 tel. 03-5317-9709 / fax 03-5317-9336 email: kira@chs.nihon-u.ac.jp  
郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会  
ホームページ: <http://english.chs.nihon-u.ac.jp/segu/>

\*\*\*\*\*

## ◆「言語系学会連合」への加入

当学会は、言語系学会連合（日本学術会議の助言のもと2010年4月に設立予定）に加入することとなりましたのでここにご報告いたします。

## ◆第18回大会開催案内

第18回大会は、下記の要領で東京（世田谷区）で行われます。

日時：2010年10月16日（土）

会場：日本大学 文理学部キャンパス

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40

[JR「新宿」駅から京王線「下高井戸」駅、  
あるいは「桜上水」駅下車、徒歩8分  
(京王線乗車時間約10分)][http:// www.chs.nihon-u.ac.jp](http://www.chs.nihon-u.ac.jp)

今回のシンポジウムは、「英語の冠詞、限定詞をめぐる」をテーマとして準備中です。司会と講師は以下のとおりです。ご期待ください。

司会 菅山謙正（京都府立大学）  
講師 石田秀雄（京都女子大短大部）  
講師 高木宏幸（近畿大学）  
講師 前川貴史（北星学園大学短期大学部）

## ◆第6回英語語法文法セミナー

標記セミナーが8月8日（日）に大阪梅田の関西学院大学大阪梅田キャンパスで開催されます。詳細は決まり次第、学会のHPおよび雑誌などに掲載する予定です。今年のテーマは、「授業に生かせる文型の話」（仮題）です。奮ってご参加ください。（必要な方にはセミナー受講証も発行いたします。）

## ◆第10回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長故小西友七先生の寄付金を基金とした「第10回英語語法文法学会賞」（2008年4月1日～2009年3月31日までに出版された単行本が対象）について、今回は「該当者なし」という結果になったことが第17回大会において安井会長より報告されました。

## ◆第11回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第11回学会賞対象図書のご推薦を依頼いたします。対象図書は2009年4月1日～2010年3月31日までに出版された単行本です。自薦、他薦を問いませんので、同封の推薦用紙に記入の上、faxあるいは郵便で2010年5月10日までに事務局（吉良文孝）宛にお送りいただくか、推薦の内容を email で事務局までお知らせください（email: kira@chs.nihon-u.ac.jp / fax 03-5317-9336）。

なお、昨秋の大会総会時にもお願いしましたが、学会会員による出版物のすべてを事務局が把握することは困難です。当該年度に単行本を出版された会員の方は、書名、出版社名等を事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。

## 英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

(授賞)

第2条 学会賞は、前年度4月1日から翌年3月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」（以下「委員会」という）の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。

- 2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。
- 3 授賞式は年次大会において行う。
- 4 受賞者に対しては、賞とともに賞金10万円を贈呈する。(関係部分一部抜粋)

#### ◆「英語語法文法学会奨励賞」の新設について

第17回大会の総会において安井会長より報告されましたとおり、英語語法文法学会は、「英語語法文法学会奨励賞」を新設することとなりました。これは、若手研究者の育成と研究活動の促進を目的とするものです。同賞の授賞に関する規定は以下のとおりです。

#### 英語語法文法学会奨励賞の授賞に関する規定

(賞の設定と目的)

第1条 英語語法文法学会は、若手研究者の育成と研究活動の促進を目的として、「英語語法文法学会奨励賞」(以下「奨励賞」という)を設定する。

(授賞の対象)

第2条 奨励賞は、毎年7月10日を締切日とする『英語語法文法研究』への応募論文(研究論文に限る。シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く)を対象として、英語語法文法学会の趣旨に照らし、実証性・独創性・発展性に富む、優れた研究に対して授賞する。応募者は上記の締め切り日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了10年以内の学会会員に限る。

(選考方法)

第3条 編集委員会が選考にあたり、運営委員会の議を経て決定する。奨励賞の授賞は、原則として年度ごとに1篇以内とする。

(選考結果の発表および授賞式)

第4条 翌年度の大会の総会にて行う。受賞者に対しては、賞とともに記念品を贈呈する。

(改廃)

第5条 この規定の改廃は、運営委員会の発議・議決による。

附則 この規定は2010年4月1日より施行する。

第1回「英語語法文法学会奨励賞」は、本年7月10日締め切りの『英語語法文法研究』への応募論文がその対象となります。

#### ◆第18回大会研究発表者募集

会員の方は下記の発表応募規定にしたがい、事務局(吉良文孝)宛に奮ってご応募下さい。

#### <研究発表応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 発表時間は25分以内(別に質疑応答が10分)とする。
3. 発表要旨は、A4判32字×25行で4枚以内(原稿用紙使用の場合はA4判400字詰め横書き8枚以内)にまとめて3部を提出する(コピーで可)。ただし、参考文献表は枚数に含めない。論文冒頭には題名のみを記し、名前・所属は別紙に。
4. 論文題目、氏名(ふりがな)、所属・職名、住所、電話番号、fax番号、email addressを明記した別紙を1枚添付する。
5. 同時に、前項の4と同じ内容と発表要旨のfile(MS WordあるいはPDF)をemailで事務局宛に送ること。emailの件名は「研究発表応募」とし、発表要旨のfileは添付fileとする。emailの宛先：[kira@chs.nihon-u.ac.jp](mailto:kira@chs.nihon-u.ac.jp)
6. 応募締め切りは7月25日(日)必着とする。
7. 郵送する発表要旨は、封筒の表に「研究発表応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局(〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部英文学科吉良文孝)宛に送付する。
8. 選考及び研究発表の割り振りは大会準備委員会が行い、結果は8月中旬までに通知する。
9. 採用者は発表要旨(500字以内)を8月21日(土)までに、予稿集の原稿を9月24日(金)までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

#### ◆第18回大会語法ワークショップ発表者募集

第18回大会の「語法ワークショップ」の発表者を募ります。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその語・構文の統語上、意味上、あるいは語用論上の特性を明らかにすることを目的とします。語法ノートの的なもので結構ですから、会員の方は次の応募規定にしたがい、事務局(吉良文孝)宛に奮ってご応募ください。

#### <語法ワークショップ応募規定>

1. 発表者は英語語法文法学会の会員でなければならない。
2. 大会当日の午前10時30分ごろから12時まで

が割り当てられ、発表時間は一人12分以内(別に質疑応答が5分)とする。

3. 発表要旨は、A4判32字×25行で4枚以内(原稿用紙使用の場合はA4判400字詰め横書き8枚以内)にまとめて3部を提出する(コピーで可)。ただし、参考文献表は枚数に含まない。論文冒頭には題名のみを記し、名前・所属は別紙に。
4. 論文題目、氏名(ふりがな)、所属・職名、住所、電話番号、fax番号、email addressを明記した別紙を1枚添付する。
5. 同時に、前項の4と同じ内容と発表要旨のfile (MS WordあるいはPDF)をemailで事務局宛に送ること。emailの件名は「語法ワークショップ応募」とし、発表要旨のfileは添付fileとする。emailの宛先:kira@chs.nihon-u.ac.jp
6. 応募締め切りは7月25日(日)必着とする。
7. 郵送する発表要旨は、封筒の表に「語法ワークショップ応募」と朱書した上で、英語語法文法学会事務局(〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40 日本大学文理学部英文学科吉良文孝)宛に送付する。
8. 選考及び発表の割り振りは大会準備委員会が行い、結果は8月中旬までに通知する。
9. 採用者は発表要旨(500字以内)を8月21日(土)までに、予稿集の原稿を9月24日(金)までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

#### 【応募上の注意】

研究発表とワークショップの両方に同時に応募することはできません。

#### ◆運営委員の交替

本年3月15日に開催の運営委員会において、次期運営委員として以下の方々が推薦され、承認されました。任期は2010年4月1日より(任期は1期2年。引き続き2期を超えてはならない)。

大竹芳夫(新潟大学)  
須賀あゆみ(奈良女子大学)  
中澤和夫(青山学院大学)

[50音順。敬称略]

また、新運営委員と入れ替わるかたちで以下の方々が運営委員を退任することとなりました。

学会運営に対する長年のご尽力に心より感謝申し上げます。

秋元実治(青山学院大学)  
柏野健次(大阪樟蔭女子大学)  
衣笠忠司(大阪市立大学)

[50音順。敬称略]

#### ◆編集委員の交替

本年3月15日に開催の運営委員会において、次期編集委員として以下の方々が推薦され、承認されました。任期は2010年4月1日より。

大竹芳夫(新潟大学)  
中澤和夫(青山学院大学)  
松村瑞子(九州大学)

[50音順。敬称略]

また、新編集委員と入れ替わるかたちで以下の方々が編集委員を退任することとなりました。学会運営に対する長年のご尽力に心より感謝申し上げます。

柏野健次(大阪樟蔭女子大学)  
児玉徳美(立命館大学名誉教授)  
田中廣明(京都工芸繊維大学)

[50音順。敬称略]

#### ◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』(第17号)への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は現代英語の語法および文法に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

なお、最近インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

#### <『英語語法文法研究第16号』の論文・語法ノートへの投稿規定>

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
3. 投稿締め切りは**7月10日(土)(必着)**、採否決定を8月中旬、刊行を12月とする。

4. 論文の場合、長さは 33 文字× 30 行、16 枚以内とする。語法ノートの場合、長さは 33 文字× 30 行、6 枚以内のものとする。
5. 論文・語法ノートはパソコンで、A4 用紙にプリントアウトしたものを 4 部（コピー可）提出すること。また、氏名と略歴（連絡先の住所、電話番号、fax 番号、email address を含む）は、論文とは別紙で付けること。
6. 前項5と同じもののfile（MS WordあるいはPDF）をemailに添付して、大室剛志編集委員長(omuro@lit.nagoya-u.ac.jp)宛に送ること。なお、件名を「投稿」とすること。**（宛先のメールアドレスが変更となっております。お間違いのないようご注意ください。）**
7. 入力に関しては、既刊号の論文を参考にし、特に以下の点に留意すること。
  - a. 例文の前後に 1 行ずつ空白行を設けること。
  - b. 各節には見出しをつけ、節の前に 1 行ずつ空白行を設けること。
  - c. 外字、機種特有の文字・記号は使用しないこと。
  - d. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
  - e. 2 桁以上の数字は半角を用いる。
  - f. 小説・論文の出典は下のように表記する。  
(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
8. 注は脚注とする。
9. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。  
Chomsky, N. 1986a. *Barriers*. Cambridge, Mass: MIT Press.  
Chomsky, N. 1986b. *Knowledge of Language: Its Nature, Origin, and Use*. New York: Praeger.  
Hopper, P. J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.  
柏野健次. 1993. 「easy タイプの形容詞の 3 つの意味」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二（編）『英語基礎語彙の文法』145-154. 東京：英宝社。  
川本一郎. 1975. 「前置詞について」『英語青年』第 120 巻 第 5 号, 23-26.  
Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.  
島村礼子. 1990. 『英語の語形成とその生産性』東京：リーベル出版。

10. 氏名と略歴（連絡先の住所、電話番号、fax 番号、email address を含む）は、論文とは別紙で付けること。
11. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
12. 著者校正は 1 回とし、変更は字句の修正のみとする。
13. 原稿料は支払わない。
14. 送付先：〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学文学部・文学研究科英語学研究室 大室剛志（「投稿論文在中」と朱記のこと）まで。

#### 【応募上の注意】

学会誌への二重投稿、研究発表への二重応募はお控えください

#### ◆英語語法文法学会第17回大会

英語語法文法学会第 17 回大会は 2009 年 10 月 24 日（土）、龍谷大学（大宮学舎）にて開催されました。活発な議論、討論が行なわれ盛会でした。開催校委員の五十嵐海理先生をはじめ、お手伝いいただいた龍谷大学の教員・院生の方々にもお礼を申し上げます。

#### ワークショップ 10.45 - 11.45

（南翼 2 階 204 講義室）

司会 林 龍次郎（聖心女子大学）

1. 「He built a house 型表現はなぜ好んで使われるのか」金子輝美（愛知淑徳大学非常勤）
2. 「慣用的表現に含まれる it の指示対象をめぐって」中村 聡（跡見学園女子大学）
3. 「Car と run の共起について—日本人大学生のエラーをめぐって—」藤本和子（創価大学）
4. 「Stronger than usual acid は可能か」廣江 颯（尚絅大学）

#### 研究発表 13.00 - 14.45

第一室（南翼 2 階 203 講義室）

司会 松村瑞子（九州大学）

1. Will / Shall be -ing の「特別用法」に関する一考察 佐藤健児（日本大学大学院）
2. 「未来表現 be about to の用法」衛藤圭一（京都外国語大学非常勤）
3. 「「客観性」と補文標識 that の出沒—確信性を表す sure, confident, certain の比較—」土屋知洋（国立岐阜工業高等専門学校）

第二室（南翼 2階 204 講義室）

司会 澤田茂保（金沢大学）

1. 「結果構文における字義的解釈と誇張解釈について」 工藤 俊（筑波大学大学院）
2. 「動作表現構文における他動性と意味的特性」 小葉哲哉（筑波大学大学院）
3. 「動詞 pour はなぜ場所格交代できないのか」 吉川裕介（龍谷大学非常勤）

**シンポジウム**（清和館 3階ホール） 15.35 - 17.45

テーマ 「大規模コーパスを英語研究に有効利用するための留意点について」

司会 大室剛志（名古屋大学）

1. 「辞書編集におけるコーパス活用」 井上永幸（徳島大）
2. 「周辺部を記述するための大規模コーパスの利用：その方法と留意点」 滝沢直宏（名古屋大学）
3. 「コンコーダンス・ラインが語ること、語らないこと：英語評価表現の場合」 深谷輝彦（椋山女学園大学）

**懇親会** 18.00 - 19.30 会場：清和館 1階食堂

#### ◆新入会員紹介

天沼 実（宇都宮大学）  
 安藤 公仁（大阪樟蔭女子大学）  
 磯山 固也（東福岡高校）  
 岩澤 勝彦（大東文化大学）  
 小澤 賢司（日本大学大学院）  
 加藤 寛典（日本大学大学院）  
 金澤 裕仁（筑波大学大学院）  
 要 雅章  
 工藤 俊（筑波大学大学院）  
 小深田 祐子（筑波大学）  
 眞田 敬介（札幌学院大学）  
 鈴木 和帆（筑波大学大学院）  
 鈴木 大介（京都大学大学院）  
 高木 勇（京都大学大学院）  
 高橋 恭平（名古屋大学大学院）  
 谷 光生（宇都宮大学）  
 土居 峻（名古屋大学大学院）  
 年岡 智見（京都大学大学院）  
 永田 舞（大阪教育大学大学院）  
 新實 葉子（名古屋大学大学院）  
 迫 由紀子（福岡女子短期大学）  
 樋口 昌幸（広島大学）  
 平野 洋平（勝田英数教室）  
 森川 博幸  
 渡邊 丈文（青山学院大学大学院）

[50音順。敬称略]

#### ◆年会費納入のお願い

2010年度（2010年4月～2011年3月）会費4,000円を同封の振替用紙でお支払いください。申し訳ありませんが、振替手数料をお支払いください（郵便振替料金は120円（ATMからは80円）です）。金額欄が8,000円になっている方は、昨年度分年会費未納ですので、併せてお支払いいただきますようお願いいたします。会費が2年連続して未納の場合は、会員の資格が失効します。

住所・所属に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添え下さい。また、大会案内や機関誌等の送付には（経費節約のため）民間のメール便を利用しておりますが、この場合、転居先までの追跡送付ができません。発行物送付の遅延にもつながりますので、年度途中で住所変更された場合には、すぐさま新住所をお知らせいただけますようお願い申し上げます。

#### ◆新刊紹介

事務局にお知らせいただいた会員の刊行物を逐次紹介いたしますので、事務局宛お送りください。（出版月順、出版時期が同じ場合は著者の50音順）

和田四郎 2009年3月『文型の意味』（研究叢書第44冊）神戸市外国語大学外国学研究所  
 内田聖二 [編] 2009年7月『英語談話表現辞典』東京：三省堂  
 大竹芳夫 2009年12月『の（だ）に対応する英語の構文』東京：くろしお出版  
 秋元実治（編）2010年3月『Comment Clauseの史的 研究—その機能と発達—』東京：英潮社フェニックス

#### 編集後記

事務局が関西から東京へと移ってから早いもので2年になります。その間どれほどの仕事ができただのか誠に心許ない限りですが、会員の皆様のご理解ご協力をえまして、何とか2年間を乗り切ることができました。感謝申し上げます。

今夏で6回目を迎える英語語法文法セミナーも軌道に乗り、ここ数年、参加者数も60余名にも達し、セミナー会場では、参加者の語法研究に対する関心の高さ、熱心さを肌で感じることが出来ます。興味をそそる題材をテーマに、今後益々盛り上がっていくことを期待しています。（なお、今夏は、より多くの参加者が見込めるよう開催日を日曜日に設定いたしました。）

また、今年の大会で安井会長より報告がありま

したように、これまでの学会賞とは別枠で、「英語語法文法学会奨励賞」が新設されました。新しい試みに学会のさらなる発展を願っています。

新しいことといえば、ここ数年、大きな交替はありませんでしたが、学会の健全化や活性化を図るべく運営委員と編集委員に大きな入れ代わりがありました。それに伴ない、学会創設時以来、永きにわたり学会運営に多大なるご尽力をいただいた数名の先生方が退かれることとなりました。ここに改めて、心より感謝申し上げますとともに、今後の学会運営を一步離れたところから見守っていただきたいと思います。

今後の学会発展のためには、学会員の皆さんにご協力願わなければならないこともございます。当学会の年会費は（その活動内容からしますと）非常に安い年会費に設定されているものと自負しておりますが、本 **Newsletter** の会計報告をご覧になってわかりますように、現在のところ、収支の著しい差はなく、なんとかバランスがとれております。このバランスが崩れ負の方向に向かい赤字に転落しますと、現在の年会費 4,000 円を維持できなくなります。1 年でも長く現在の年会費額を維持するためには、例えば、現会員に送られる学会誌『英語語法文法研究』とは別に、皆さんの所属する研究室、図書館等でも常備していただければ随分と助かります。また、夏のセミナーなども、今後は会員の皆さんに講師役をお願いすることもあろうかと思いますが、その際は、交通費の全額をお支払いできない場合もあります。いわゆる、手弁当ということになりますが、その節は、是非ともご協力の程、お願い申し上げます。

お願いばかりで恐縮ですが、学会のさらなる充実発展のため、これまでと同様のご理解ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

(吉良文孝)